

戦評

大会名 県民共済カップ
第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦
日時 令和5年10月28日～29日
会場 青森県武道館

男子決勝（10月29日）

弘前工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25-20 \\ 25-21 \\ 25-20 \end{array} \right\}$ 0 五所川原工科高等学校

ファーストレフリース 新岡 勇士
セカンドレフリース 川村 陽平

4大会連続44回目の優勝を目指す弘前工業高校（以下弘工）と4大会ぶり9回目の優勝を目指す五所川原工科高等学校（以下五工）との対戦。

第1セット序盤、弘工は渡辺・三浦拓の高さのあるスパイクで加点、対する五工は粘り強いレシーブと的を絞らせない攻撃で反撃、一進一退の攻防が続く。中盤弘工は渡辺の連続得点で16-13とし1回目のタイムアウト。その後弘工は決定機を作るも決めきれず、五工は三橋のスパイクで1点差まで追い上げるが、弘工鎌田のスパイクで点差を広げ21-17で2回目のタイムアウト。弘工は鎌田の攻撃でさらに点差を広げ第1セットを先取。

第2セット、五工は三橋のブロックやサーブで加点、弘工は鎌田のライト攻撃・三浦拓のクイックで中盤まで互角の戦いを繰り広げる。五工はセッター伊藤の華麗なトス回しかからアタッカーが躍動し、弘工はクイックを中心に加点し、21-18で五工が1回目のタイムアウト。その後も弘工は長内のクイックで加点、五工は三橋のスパイクで反撃し粘りを見せ、23-20で弘工1回目のタイムアウト。最後は弘工柴田のスパイクで2セット目も取る。

第3セット、弘工は三浦拓のスパイクで先制、五工は組織的なブロックで相手の攻撃を防ぐも、ミスが続き10-6で五工が1回目のタイムアウト。五工は小林のスパイクが冴え中盤に迫いつくが、弘工は長内のクイックで点差を広げ、18-16で五工が最後のタイムアウト。弘工は三浦拓・渡辺のスパイク、長内の高さのあるブロックとクイックで加点、五工は三橋のスパイクで粘るも、最後は弘工の高さのあるブロックが相手のミスを誘い、弘工が4大会連続44回目の優勝を決めた。

戦評者 小山内 忍